

がん腫	婦人科 卵巣癌		
レジメン	GEM 療法		
レジメン内容	用量	点滴時間	
	GEM	1000mg/m <sup>2</sup>	30 分 Day1, 8, 15
1 クールの期間	4 週間		

Day1, 8, 15

🚫 《新規》注射 未実施 消化器 医師名なし

☐ Rp01 2017/02/02 ~ 2017/02/02 毎日-(1)			
- メイン点滴 末梢①			
- 点滴(メイン、自然滴下)			
- ルートキープ			
- 生食 100ml	1	本	
☐ Rp02 2017/02/02 ~ 2017/02/02 毎日-(1)			
- 側管点滴 末梢①			
- 点滴(側管、自然滴下)			
- 15 分かけて注入			
- デキサート注射液6.6mg 2mL	1	瓶	
- 生食 50ml	1	本	
☐ Rp03 2017/02/02 ~ 2017/02/02 毎日-(1)			
- 側管点滴 末梢①			
- 点滴(側管、自然滴下)			
- 30 分かけて注入			
- 点滴時間厳守！！			
- ゲムシタビン点滴静注用1g「NK」★	1	mg	
- ゲムシタビン点滴静注用200mg「NK」★	1	mg	
- 生食 100ml	1	本	

レジメンについて 再発症例に対する国内の第Ⅱ相試験では、奏功率は 17.9%、TTP (中央値) : 11.2 ヶ月、プラチナ製剤および/またはタキサン製剤抵抗性の症例を対象とした海外の第Ⅱ相試験では奏功率は 17.1%、TTP (中央値) : 8.8 ヶ月、OS (中央値) : 11.2 ヶ月、プラチナ製剤および/またはタキサン製剤抵抗性の症例を対象とした海外の第Ⅱ相試験では奏功率は 17.1%、TTP (中央値) : 18 週であった。また海外の第Ⅲ相試験では奏功率は 28.3%、TTP (中央値) : 20 週、OS (中央値) : 51 週であった。プラチナ製剤およびタキサン製剤抵抗性症例に対し、作用機序のプロファイルが異なる薬剤として期待されている。高い忍容性を有しており、長期投与可能である。血液毒性による day15 の GEM 投与のスキップを避けるため、GEM 1000mg/m<sup>2</sup> を day1, 8 で投与する tri-weekly 投与も報告されている。

主なエビデンス	Watanabe Y, et al. Int J Clin Oncol. 2008. ; 13 : 345-8. D'Agostino G, et al. Gynecol Oncol. 2003 ; 88 : 266-9. Ferrandina G, et al. J Clin Oncol. 2008 ; 26 : 890-6. Mutch DG, et al. J Clin Oncol. 2007 ; 25 : 2811-8.
---------	---

<b>開始基準</b>	<p>本剤の投与にあたっては、白血球数及び血小板数の変動に十分留意し、投与当日の白血球数が 2000/<math>\mu</math>L 未満又は血小板数が 7 万/<math>\mu</math>L 未満であれば、骨髄機能が回復するまで投与を延期すること。</p> <p>また、前治療により、骨髄機能が低下している患者では、骨髄抑制が強くあらわれることがあるので、これらの患者では投与量を適宜減量し、臨床検査値に十分注意すること。本剤を週 1 回 3 週連続投与した場合、白血球数及び好中球数の最低値は投与開始平均約 2～3 週間後にあらわれ、最低値発現日から約 1 週間で回復する。</p> <p>(添付文書記載)</p>
<b>減量基準</b>	<p>投与前日 or 当日データにて白血球数 2,000/<math>\mu</math>L 未満、好中球数 1,000/<math>\mu</math>L 未満、血小板数 70,000/<math>\mu</math>L 未満の場合は休薬、白血球数 1,000/<math>\mu</math>L 未満、好中球数 500/<math>\mu</math>L 未満、血小板数 25,000/<math>\mu</math>L 未満の場合、次投与以降は 800mg/<math>m^2</math>に減量。</p>
<b>主な副作用 (%)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 本療法は血液毒性に十分な注意が必要である。Grade3 以上の好中球減少は 39.3%、貧血は 46.4%、血小板減少は 10.7% であった。</li> <li>✓ 本剤は間質性肺炎に十分な注意が必要であり、投与前や投与中においても定期的に呼吸機能検査や胸部の聴診、レントゲン検査を行うことが望まれる。</li> </ul>
<b>当院レジメンについて</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 軽度催吐性リスク化学療法のため、制吐剤は Dexamethason 6.6mg のみ。</li> <li>✓ Steroid ( dexamethasone ) による血糖上昇、免疫抑制などが問題となる場合は、制吐剤をグラニセトロンへ変更することも可能と考えられる。</li> <li>✓ GEM の点滴時間は 30 分を厳守していただく。</li> </ul>
<b>患者への注意事項</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ GEM の希釈液を生食ではなくブドウ糖とし、血管痛の対策を行っているが、血管痛発現時は温罨法が有効なため対応を勧める。</li> </ul>
<b>参考資料</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ がん薬物療法ガイド レジメン+薬剤情報 編集 国立がん研究センター 内科レジデント・薬剤部レジデント (医学書院)</li> <li>✓ エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック 2017</li> <li>✓ 医薬品添付文書</li> </ul>